

事業概要

【事業の目的・目標】

■先進的な理数系教育を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定し支援
 →**将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材を育成**

■学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成が可能
 →**高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する実証的資料に**

【事業規模】

- 令和3年度指定校数:220校程度(うち新規:30校程度)
- 指定期間:原則5年
- 支援額:7.5~12百万円/年
(ただし5期目は、6百万円/年)

【取組】

- 高大・企業連携による興味関心の喚起、フィールドワーク等による課題研究
- 海外の高校・大学等との連携による国際的に活躍する意欲・能力の育成、社会貢献 等

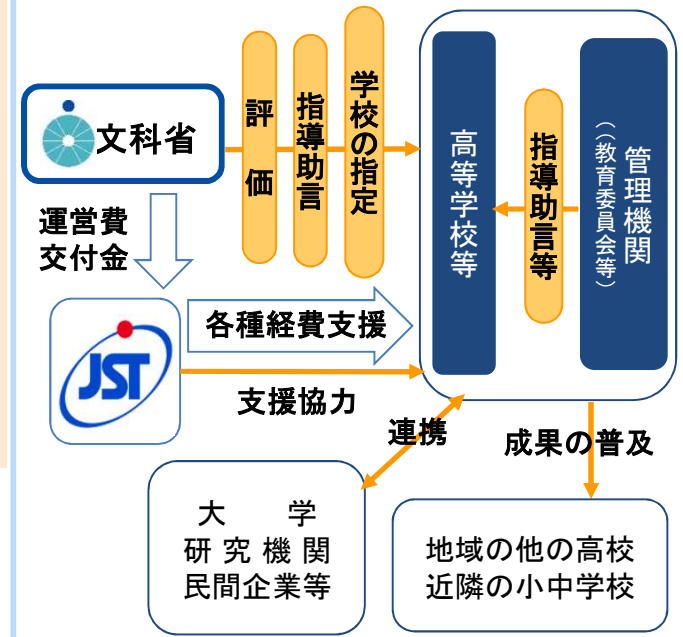
【重点枠】

- 重点枠数:10校+2コンソーシアム程度(うち新規:2校+1コンソーシアム程度)
- 指定期間:最長5年
- 支援額:年間 5~30百万円

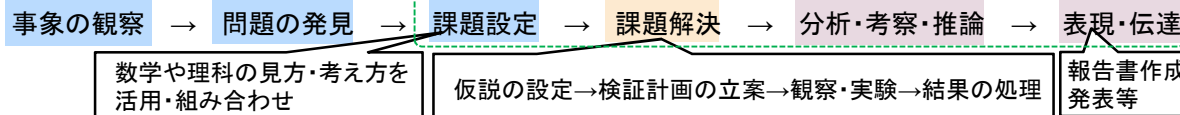
○SSH指定校の中で、さらに以下の取組を行う学校を追加支援。



【事業スキーム】



課題研究の流れ(イメージ)



【課題研究の例】

岡山県立岡山一宮高等学校「おがくずを用いた新しい耐火性および断熱性素材の開発」
 (R2年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会
 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞)

成果

学習指導要領改訂

SSHにおける成果等を踏まえ、**高等学校新学習指導要領(※)**において、科目「**理数探究基礎**」「**理数探究**」を新設(共通教科「**理数**」)

※R4年度から年次進行で実施

科学技術への興味・関心 や姿勢の向上

- 科学技術に関する学習に対する意欲が増した **62%**
- 未知の事柄への興味が向上した **80%**
- 自分から取り組む姿勢が向上した **74%**
- 真実を探って明らかにしたい気持ちが向上した **72%**
(令和元年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査)

科学技術コンテスト等 における活躍

- 国際科学オリンピック(国内大会)の年間のべ参加者数のうちSSH指定校生徒数 → **約20,000人中、約7,000人**
 - ISEF(※)に出場した日本代表生徒のうちSSH指定校生徒の割合 → **約5割**
 - 国内外のコンテスト・学会で受賞 等
- ※課題研究型国際コンテスト

進路選択に関する効果

・専攻分野の選択に影響を与えた **61%**
 (令和元年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査)

優れた科学技術人材の輩出

SSH指定校の卒業生が、優れた科学技術人材として国内外で活躍